

# jFUNU Newsletter

公益財団法人 国連大学協力会

〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

TEL 03-5467-1368 FAX 03-5467-1349

URL <http://www.jfunu.jp/> E-mail [jf@unu.edu](mailto:jf@unu.edu)

- Sustainability Research Symposium 2019
- jFUNU Study Tour in Aichi
- 国連大学サステナビリティ高等研究所  
大学院学位授与式

## UNU-IAS大学院生実行委員会による Sustainability Research Symposium 2019が開催されました

2019年7月4日に国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) と国連大学協力会 (jFUNU) の共催による Sustainability Research Symposium 2019 が開催されました。



マローン学長、竹本UNU-IAS所長を囲んで

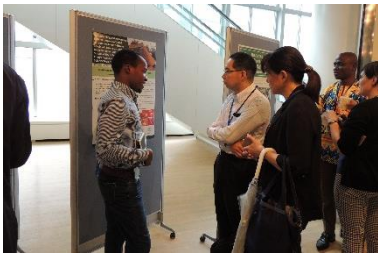
このシンポジウムは、jfScholarship奨学生の熱い思いが、国連大学を動かし、協力団体を動かし、国連大学大学院の学生が彼らの研究の成果を、日本の皆さま、特に学生たちを支援してくれた多くの方に知っていただきたいというものでした。そこから学生たちでいろいろとアイデアを出しあい、実行委員会を立ち上げ、忙しい学業の合間を縫って準備をすすめてきました。その企画から運営に至るまで主体的に取り組んだ初めてのシンポジウムです。UNU-IASやjFUNUのスタッフも彼らの情熱、そして実行力に驚かされるばかり。

当日は、UNU-IASのDjalante先生によるSDGsについての講演に始まり、UNU-IASの学生だけでなくパートナー大学から多くの大学院生たちもプレゼンターとして参加し、研究発表を行いました。UNU-IASの研究者達も参加したインタラクティブなセッションでは、会場を巻き込んだ積極的なディスカッションへと発展し、活気に満ちたものとなりました。会場のあちこちで、時にシビアな、時にユーモアのある意見交換が展開されました。

朝から夕方までの長いプログラムではありましたが、終わってみればあっという間の一日。

シンポジウムには、jFUNUの賛助会員の皆さまをはじめ、大勢の方にご来場いただき、学生たちの研究への熱意、高い志を直接感じ取っていただけたのだと思います。

このシンポジウムがSustainableであること、すなわち来年以降も続けていくことが、学生たちの希望でもあります。jFUNUは出来る限りの支援をしていきたいと考えています。



写真左上:ポスターセッションでの一コマ 写真右上:参加者も真剣なまなざし  
写真下:UNU-IASの研究者によるディスカッション

こだわりはこんなところにも… 合言葉はSustainability!

今回のシンポジウムのテーマはSustainability。

昨今日本でも取り上げられているプラスチックごみの影響を考え、

コーヒープレイクでは、極力プラスチックごみを出さないスタイルを追求しました。

紙コップ、マイボトル、紙のマドラー、お菓子は個包装のものは避けてと、ケータリング会社の皆さまにも学生たちの想いを

伝えたところ、主旨をご理解いただき、快く協力してくださいました。ありがとうございます! (ケータリング協力:株式会社コルディアール様)



# jfUNU Study Tour トヨタ自動車元町工場を見学しました

国連大学協力会では、国連大学サステナビリティ高等研究所大学院プログラムで学ぶ学生たちに日本を代表する先端企業の現場を紹介する見学会を年2回ご案内しています。今回は効率性と合理性で定評のある生産ラインと地球に優しい自動車の開発でサステナブルな社会の実現に取り組むトヨタ自動車株式会社を名古屋に訪ねました。

## トヨタが誇る「良い品良い考」

2019年7月9日朝9時、品川駅から東海道新幹線のぞみに乗車。富士山を撮影しようとカメラを構える学生を尻目に、厚い雲が覆いかぶさり、残念ながら至宝富士はその雄姿をみせてくれませんでした。和気あいあいと車中で早めの昼食、あっという間に名古屋駅に降り立ちました。名古屋駅からマイクロバスに乗り、一路元町工場へ。元町工場では高級車クラウンやマークXの溶接、組み立てラインを見学。「機械と人の良い点が組み合わせられたところが素晴らしい」と学生たちは、創業以来脈々と受け継がれてきた創業者豊田喜一郎氏の「ジャスト・イン・タイム」の創意工夫と「良い品良い考」を肌で感じたようでした。



Wingletを乗りこなす様子

## 次世代モビリティ“Winglet”

元町工場を後にした一行が次に向かった先は、トヨタ自動車株式会社のトヨタ会館ミュージアム。このミュージアムでは車開発の歴史資料とともに最新モデルや実物のレースカーなどのトヨタ車が展示され、いつかは私もオーナーにとばかり、学生たちはお気に入りの車の前で記念撮影をしていました。また次世代モビリティのWingletにも試乗。ヘルメットをかぶせられちよっぴり緊張気味の学生たちも、レクチャーを受けながらスイスイと乗りこなしていました。

## 名古屋名物“手羽先”

夕暮れ迫る名古屋駅。30分の自由時間で学生たちが向かったのは、名古屋名物“手羽先”。Take outで新幹線に乗り込むとビール片手に宴会が始まりました。まるで、どこぞの国のサラリーマンのよう。引率にも思わず笑みがこぼれました。“今日一日、お疲れ様でした！”



# UNU-IAS大学院プログラム学位授与式

2019年7月23日、国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)大学院プログラム学位授与式が執り行われました。フィリピン、メキシコなど9か国から10名の修士が、そしてエチオピア出身の博士が1名、この日誕生。このうち、4名がjfScholarship奨学生、日本での生活をサポートしてくれたお礼をこめてThank you letterがjfUNUの役員に手渡されました。



jfScholarship奨学生からThank you letterを受け取る  
斎藤勝利評議員会会長



修了生集合写真



jfScholarship賛助会員と懇談する修了生  
(森本鐵鋼産業株式会社代表取締役社長森本勝好氏)



## jfScholarship奨学生 とは？

国連大学協力会が「jfScholarship賛助会員制度」に基づき、日本の皆さまから寄付金のご支援を得て、奨学金を出している学生。特に開発途上国出身の学生への支援を重視し、入学から修了までの生活費の支援を行っています。